知床国立公園指定60周年・世界自然遺産登録20周年記念特集 Vol.2

わたしたちの知床

― 夢を育み、そして未来へ ―

知り、守り、伝える「知床財団」

流氷を起点とした、豊かな生態系と生物多様性が他に類を見ないと評価され、世界自然遺産に認定された「知床」。

しかし、知床の価値が認められた理由はそれだけではありませんでした。

平成16年に現地調査をしたIUCNは、知床の自然を賞賛するとともに「推薦地の陸域部分の管理レベルは高い。（中略）また、行政としれとこ100平方メートル運動などの主要関係者グループとの間にもすばらしい協力関係が認められた※」と、その管理体制についても高く評価しています。

知床を世界自然遺産へと導いた一因とも言える「しれとこ100平方メートル運動」を町とともにけん引してきたのが、『公益財団法人 知床財団』。

記念特集第2回では、長きにわたり知床の最前線で活躍する知床財団の皆さんにお話を伺い、そばで見守り続けてきたからこそ分かる知床の「現在」をお伝えします。

※知床データセンターHP掲載「IUCN（デビットシェパード）からの書簡（抄訳）」より

知床財団とは

知床財団は、昭和63年に設立されて以来、30年以上にわたって環境教育や普及啓発、野生生物の保護管理・調査研究、森づくりなどを行ってきた公益財団法人です。

知床財団の取り組み

知り

- ヒグマやエゾシカの生態数調査
- 鳥類や魚類・昆虫類のモニタリング調査
- 国立公園の利用に関する調査など

守り

- 人と野生生物の共存を目指した保護管理活動
- 市街地周辺の電気柵の設置
- 「しれとこ100平方メートル運動」における森林再生活動

伝える

- 地元の保育園や学校でのクマ授業の実施
- 子ども向けのキャンプ「知床自然教室」の実施
- イベントの出展

知床の今

斜里と羅臼、両町で活動する知床財団から見た知床の現状を伺います。

公益財団法人 知床財団

自然再生担当
中西将尚（なかにしまさなお）さん

鳥獣対策担当
金川晃大（かながわてるひろ）さん

普及企画担当
米田紗衣（こめだ さえ）さん

羅臼担当
坂部皆子（さかべみなこ）さん

ヒグマ

斜里

世界遺産エリアでは利用者が不用意にヒグマに近づく事例が後を絶たない一方、近年はウトロ市街地でのヒグマ出没も多くなり、地域住民の生活や産業にも大きな影響を与えています。人が安心・安全に暮らし楽しめる知床であるために、人とクマとの間で生じている問題を解消し、お互いに適度な距離感と緊張感を保ちながら人とクマが共存していけることを願っています。（金川）

羅臼

ヒグマの大量出没を起こすことなく、ヒグマとの共存を続けていくことを目指します。（坂部）

森

斜里

100平方メートル運動は、日本におけるナショナル・トラスト運動の先駆けとして始まりました。森林再生は新しい分野で、毎年の調査データから正しいやり方を見出していかなければならず失敗も多くありましたが、今でも毎年新しい取り組みが生み出されており、知床を愛する人々の情熱とチャレンジ精神は尽きることがありません。今後、知床がこれまで30年近くにわたり培ってきたノウハウを他の地域へ伝えていくために、交流事業などを行うことも検討しています。（中西）

人

斜里

町内の小・中・高では、環境教育が積極的に行われており、知床の自然について学び、触れる機会も多くあります。しかし、大人になると、そもそも遺産地域内に足を運ぶ機会が少ない方も多いのではないでしょうか。今後は、若い世代を中心とした多くの大人の方々にも、知床に関心を持ち、積極的に関わっていただけるようなイベントなどを企画していきたいと考えています。（米田）

羅臼

以前は自然など当たり前にあるもので、そこに価値があるという考えは多くはなかったように思います。しかし、近年は漁業者がヒグマクルーズ船を始めたり、自然に目を向けることが増えてきています。（坂部）

変わりゆく知床と私たち

世界遺産登録から20年を経て、知床を取り巻く環境は多様に変化しています。

それは、海や森、動物たちだけではなく、知床に携わる私たち人間も同じです。

これから先、観光で訪れる人、知床を応援してくれる人、そしてこの地で生活している私たちは、どのように知床に向き合っていくべきなのでしょうか。

海

羅臼

羅臼の海の状況は大きく変化をしていると思います。スケトウダラやシロザケ、カラフトマスのように大きく漁獲量が減っている種があり、ブリやマグロ、サバなど南の魚種が見られるようになってきています。（坂部）

知床が抱える課題、そして未来

長きにわたり知床をそばで見守り、携わってきた知床財団が考える、これから私たちが向き合うべき課題、そして、知床が目指す未来について伺いました。

公益財団法人 知床財団

調査研究室
参事/主任研究員
秋葉 圭太（あきば けいた）さん

自然再生・交流推進担当参事
（兼）自然復元事業係長
中西 将尚（なかにし まさなお）さん

世界自然遺産・知床が誕生して20年が経過し、今や私たちにとって身近な存在となりました。

それは、喜ばしいことでありながら、知床の未来を考える上では課題ともなり得ます。

秋葉さん「近年の課題として、世界遺産が地域に馴染み、地元の方がその恩恵を感じづらくなっていることが挙げられます」

中西さん「遺産登録時と比べると100平方メートル運動の参加者は減ってきています。環境活動の支援先も多様化しており、いかに知床を選んでもらうかが課題となっています」

この地で暮らす人々、そして全国の支援者の力によって成り立っている知床。これからも両者を持続していくために必要なことは何でしょうか。

秋葉さん「知床は地域住民の力なくして維持していくことはできません。世界自然遺産・知床として地元へ貢献するには、観光から地域産業全体の発展に導いていくことが重要となります。そして、知床観光を活性化させることは森づくりの担い手確保にも繋がります。『保護と利用』は、まさしく両輪で成り立っているのです」

自然環境保護と地域経済の発展は、相反するようで密接に繋がっています。そして、その『両輪』を繋ぐことも知床財団の役割なのです。知床観光においても観覧型から体験型へと進化しているなど、知床を感じ、体感することが未来の森づくりへ繋がっています。

中西さん「100平方メートル運動の参加者は減少傾向にありますが、学生や企業研修での参加は増加してきています。次世代を担う人材育成の場として選んでもらうことが、これからの知床をつくる鍵となるでしょう」

この先、時代が移り変わっても知床の価値を残さないといけません。未来へ世界自然遺産・知床を引き継ぐために必要なのは、人を育て続けることなのかもしれません。

歴代町長インタビュー

世界自然遺産・知床とともにまちづくりを行ってきたお二人。
最後に、それぞれの視点から語られた知床の歩みに思いを巡らせ、
これから私たちが進むべき道を考えていきましょう。

元斜里町長
村田 均（むらた ひとし）さん

『みどりと人間の調和』が世界遺産へ導いた

午来さんからバトンを受け継ぎ、町長に就任した村田均さん。『世界自然遺産・知床』を未来に繋いでいかなければならないことへの重圧はあったのでしょうか。

「斜里町は、遺産登録の何十年も前から町是である『みどりと人間の調和を求めて』を指針としてまちづくりをしてきました。世界自然遺産は、先人たちが知床を守り育ててきた努力の賜物です。私自身も遺産登録以前からずっと町是を指針として活動しており、その思いは町長になってからも変わりませんでした」

『世界自然遺産・知床』であっても、斜里町民として町是を胸に知床に向き合う姿勢は変わらなかったという村田さん。

知床を後世に残していくためには、私たち一人ひとりが『みどりと人間の調和』を意識し、追い求めていくことが大切なのだと訴えます。

「約60年前から掲げてきた『みどりと人間の調和を求めて』は、斜里町のまちづくりの基本中の基本であり、真髄だと思っています。時代が変わり、古くなっていくものもありますが、これだけは変わらず斜里町の道しるべとなるでしょう。知床は全国各地から応援していただいていますが、この地に住んでいるのは私たちです。皆さんにはこれからも『みどりと人間の調和』とは何なのかをよく考え、知床を維持していくために努力していってほしいですね」

10周年が転機 遺産としての新たな道

馬場さんには、町長として活躍してきた12年間に意識してきたことについて伺いました。

「平成20年に、ＩＵＣＮより知床の保全状況に関する調査報告書が提出され、今後の助言として17項目の勧告が示されました。その中の一つが『知床エコツーリズム戦略』の早期策定でした。その基本的な考え方として『自然価値の維持』と共に『世界の観光客への良質な自然体験の提供』『持続可能な地域経済の発展』が盛り込まれており、それまでの自然保護か利用かの葛藤から一歩踏み出した内容と受け止めました。この勧告がその後の知床のあるべき姿を描く指針となった気がします。遺産登録10周年の節目に始まった、若年層がターゲットの『知床ブランディング』は、これまでの『大自然・知床』だけではなく、自然の中で共に生きている『人の営み』の魅力を付加しました。そうして、『知床トコさん』というブランドシンボルとともに楽しめる、持続可能な『ＳＨＩＲＥＴＯＫＯ』の展開が始まったのです」

時代と共に新たな魅力が生まれ続けるのも知床の持つ力。遺産登録20周年を迎えた今、改めて私たちが向き合うべきことは。

「知床とは、斜里と羅臼があって知床です。両町民がお互いの存在を尊重し合い、心を一つにすることが知床を後世に繋いでいくために必要不可欠。知床の自然に惹きつけられた全国の皆さんの思いに、両町で力を合わせて応えていくことが、知床の未来をつくると信じています」

前斜里町長
馬場 隆（ばば たかし）さん

問 環境課 自然環境係 ☎0152-26-8217